

2019年3月期 第2四半期
決算説明会配

2018年 11月12日
戸田建設株式会社

本資料には、当社及び当社グループの将来についての計画、戦略、業績の予測に関する記述が含まれています。

これらの記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が予測したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績または展開は、記述されているものと異なる可能性があることをご承知おきください。

本日の内容

1. 決算説明

- 管理本部長 鞠谷 祐士

2. 課題と取り組み

- 代表取締役社長 今井 雅則

1. 決算説明

管理本部長 鞠谷 祐士

1-1. 決算概要

決算のポイント

■ 連結売上高 2,030億円 (前期比 11.8%)

： 国内建築の手持工事の進捗及び国内グループ会社・海外事業の売上高増加等により前期比11.8%増加の2,030億円となりました。

■ 営業利益 103億円 (前期比 △16.2%)

： 営業利益は前期比△16.2%減少の103億円となりました。前期においては好採算の追加工事の獲得が特に多かったこと等が要因となっており、当期の業績としては概ね計画通りに進捗しております。

■ 建設受注高 (個別) 2,704億円 (前期比36.4 %)

： 国内建築・国内土木ともに官公庁工事の受注が前期比で大幅に増加したため、全体では36.4%増加の2,704億円となりました。

決算概要

単位：億円	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期			
		期初予想	実績	前期比	予測との差異
連結売上高	1,816	2,150	2,030	11.8%	△119
営業利益	123	122	103	△16.2%	△18
経常利益	135	132	118	△12.5%	△13
親会社株主に帰属する 当期純利益	102	89	82	△19.4%	△6
建設受注高 (個別)	1,981	2,000	2,704	36.4%	+704

主な受注工事

	発注者	工事名
建築	宮崎市郡医師会	宮崎市郡医師会病院等移転新築工事
	首都高速道路	(仮称) 神奈川局新社屋建築工事
	三菱倉庫	南本牧配送センター建設工事
	栃木県 小山市	小山市役所新庁舎整備事業
	三州会	大勝病院新築工事
土木	東京都財務局	城北中央公園調節池(一期)工事その2
	鉄道・運輸機構	中央新幹線、上小山田非常口
	OR山口美祢ソーラー発電所	OR山口美祢ソーラー発電所工事

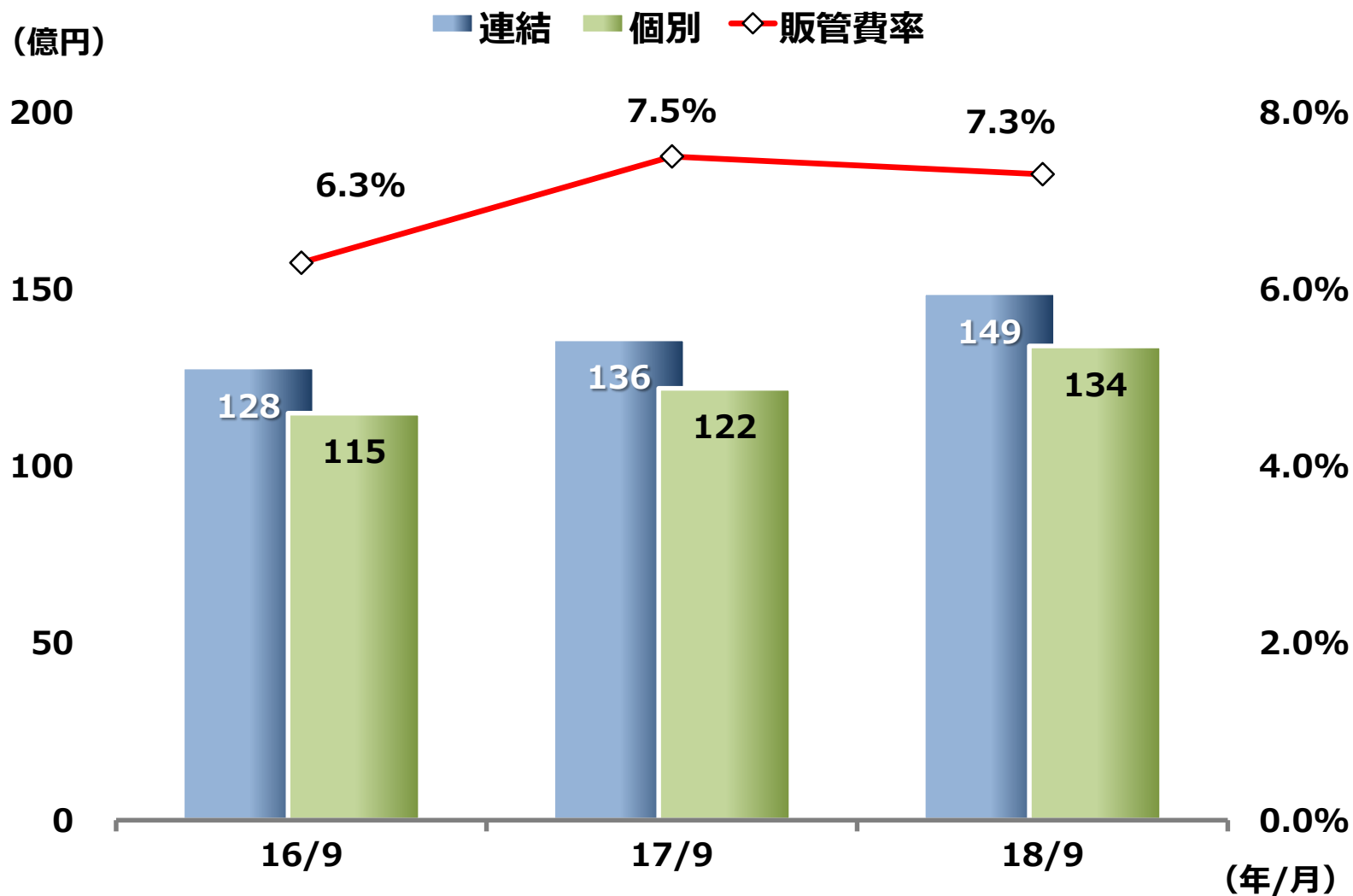
※敬称略、工事名は略称

1-2. 決算詳細説明

【連結】グループの状況

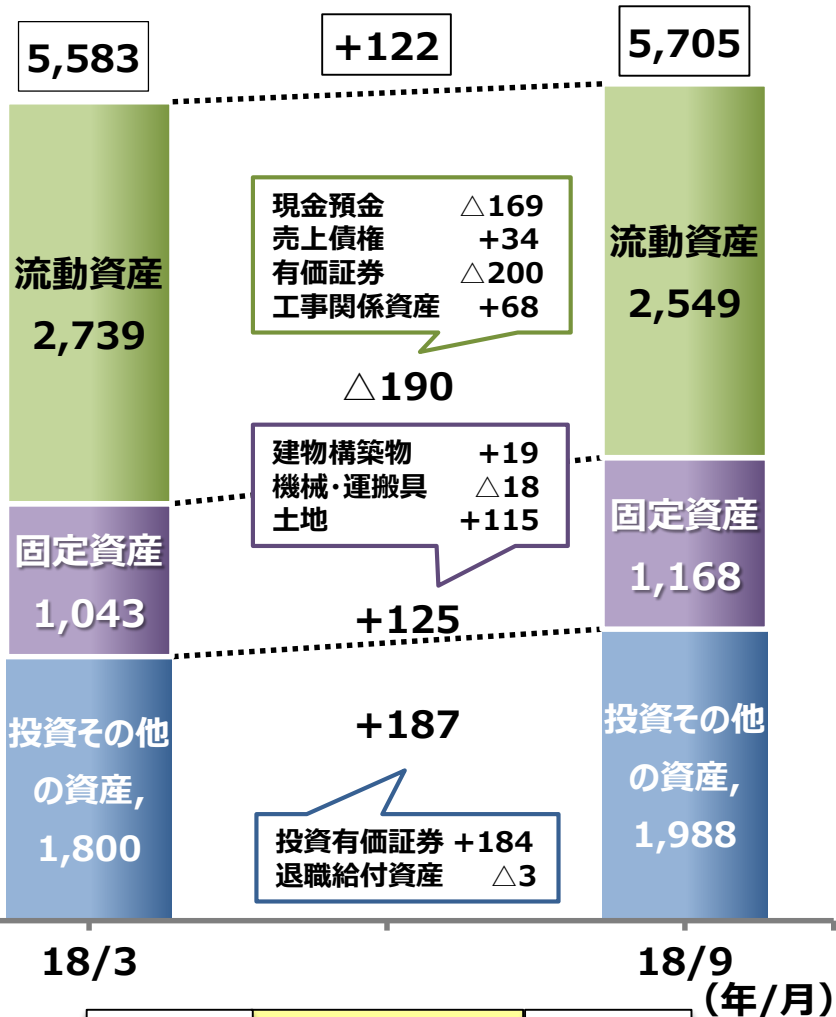
事業		国内子会社	海外子会社	18社
建設	建築	(株)アペックエンジニアリング 千代田建工(株)	ブラジル戸田建設(株) タイ戸田建設(株) ベトナム戸田建設(有) 他3社	8社
	土木	戸田道路(株)		1社
不動産		戸田ビルパートナーズ(株) (株)日新ライフ 他1社	アメリカ戸田建設(株)	4社
その他		戸田ファイナンス(株) 戸田スタッフサービス(株) 東和観光開発(株) 五島ソーティングウインドパワー(同) オショアウインドファームコンストラクション(同)		5社

【連結】販管費の推移

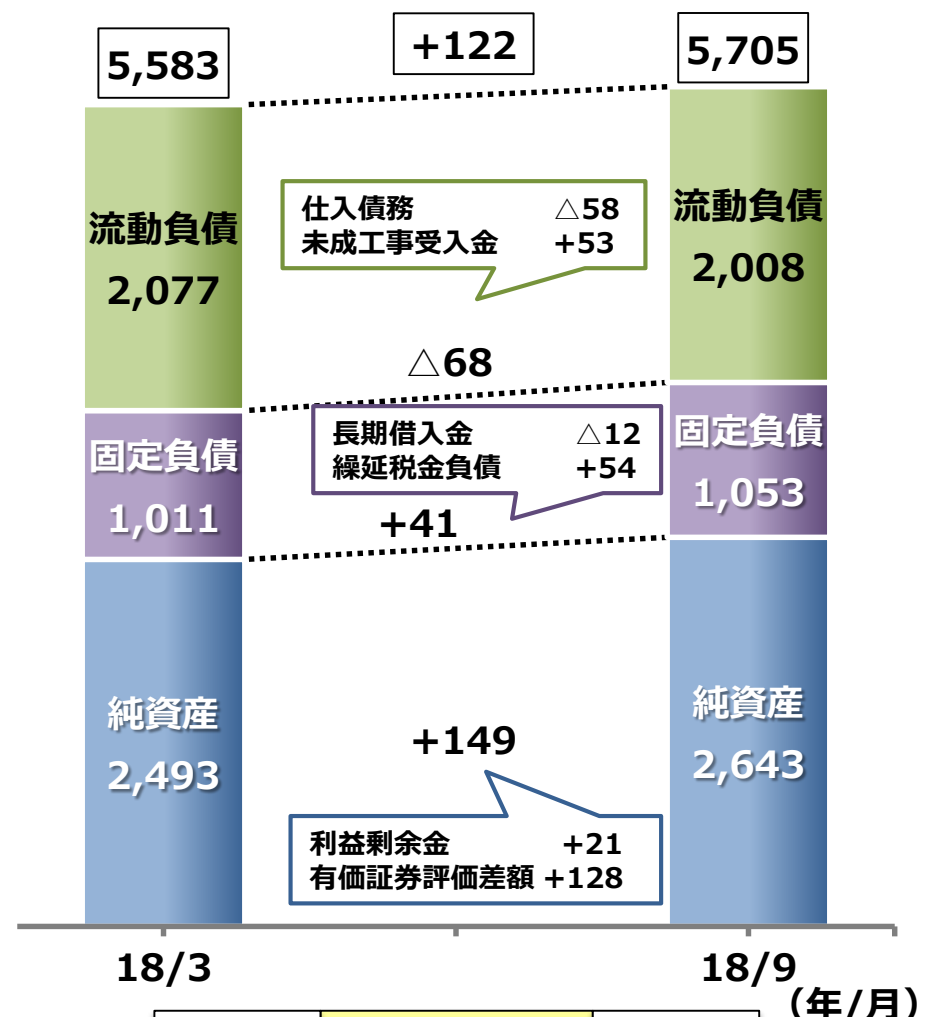


【連結】連結貸借対照表

資産の部 (億円)



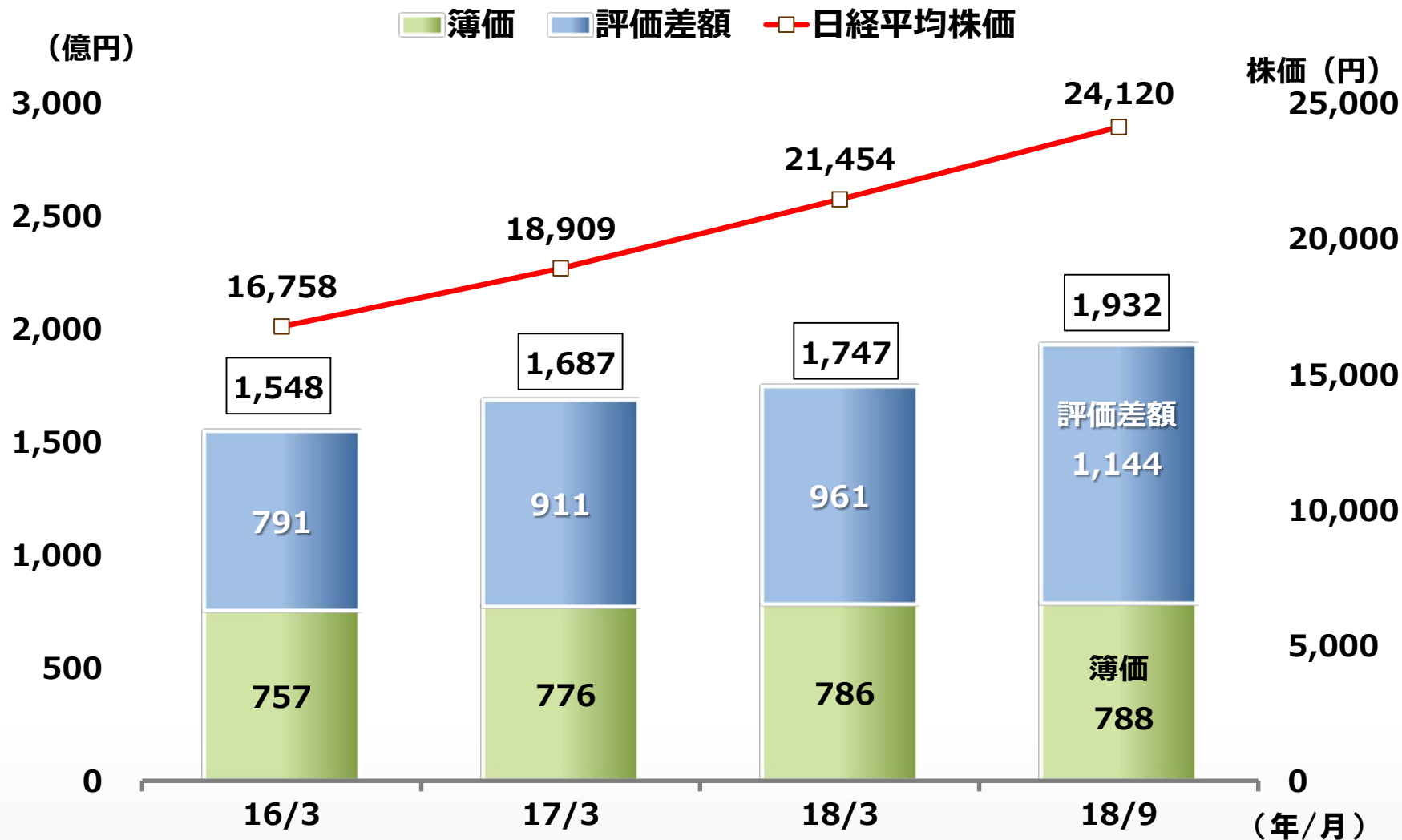
負債・純資産の部 (億円)



131.9% **流動比率** 126.9%

44.1% **自己資本比率** 45.8%

【連結】投資有価証券の推移

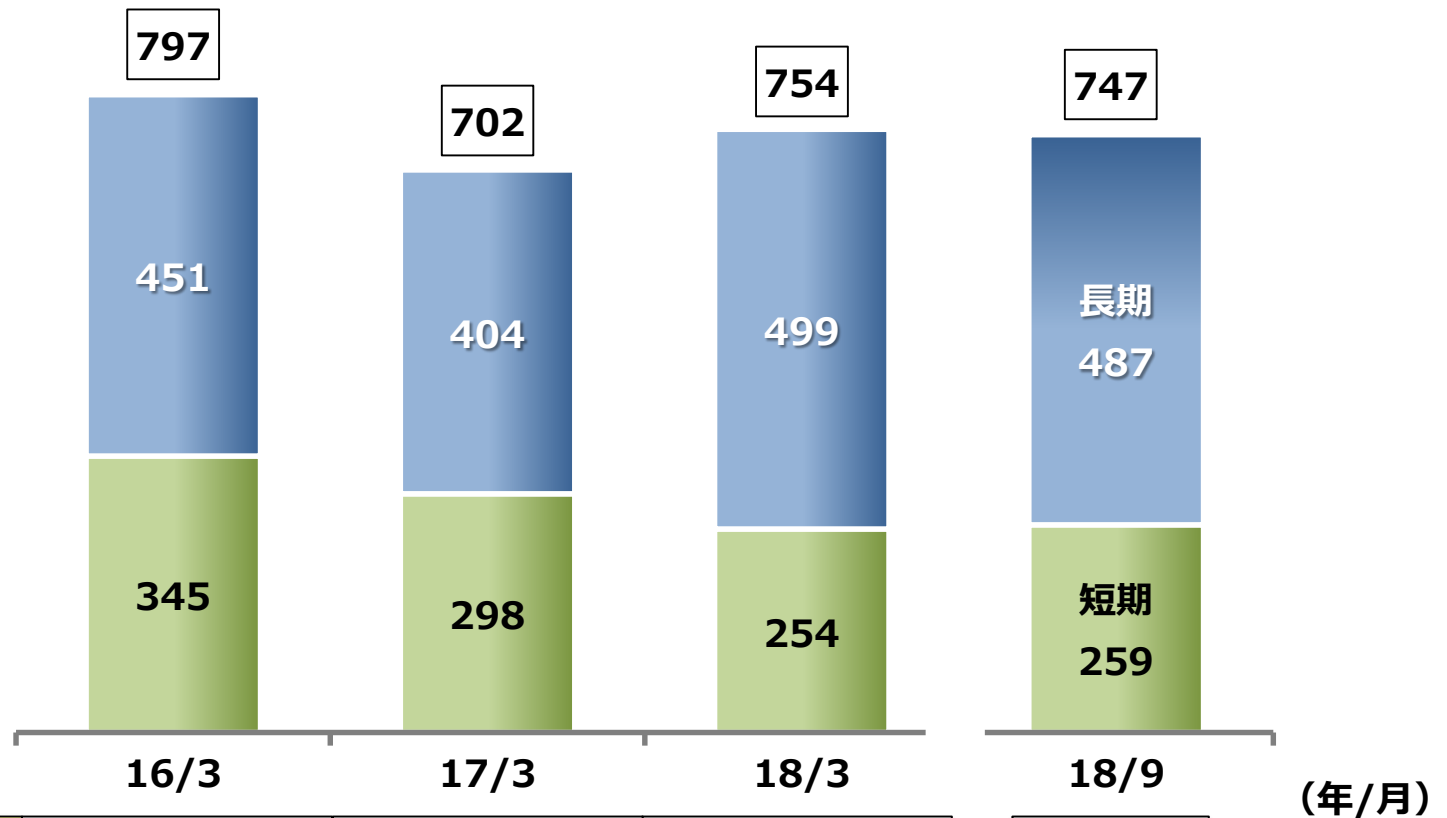


【連結】有利子負債の推移

■ 短期

■ 長期

(単位：億円)



D/Eレシオ

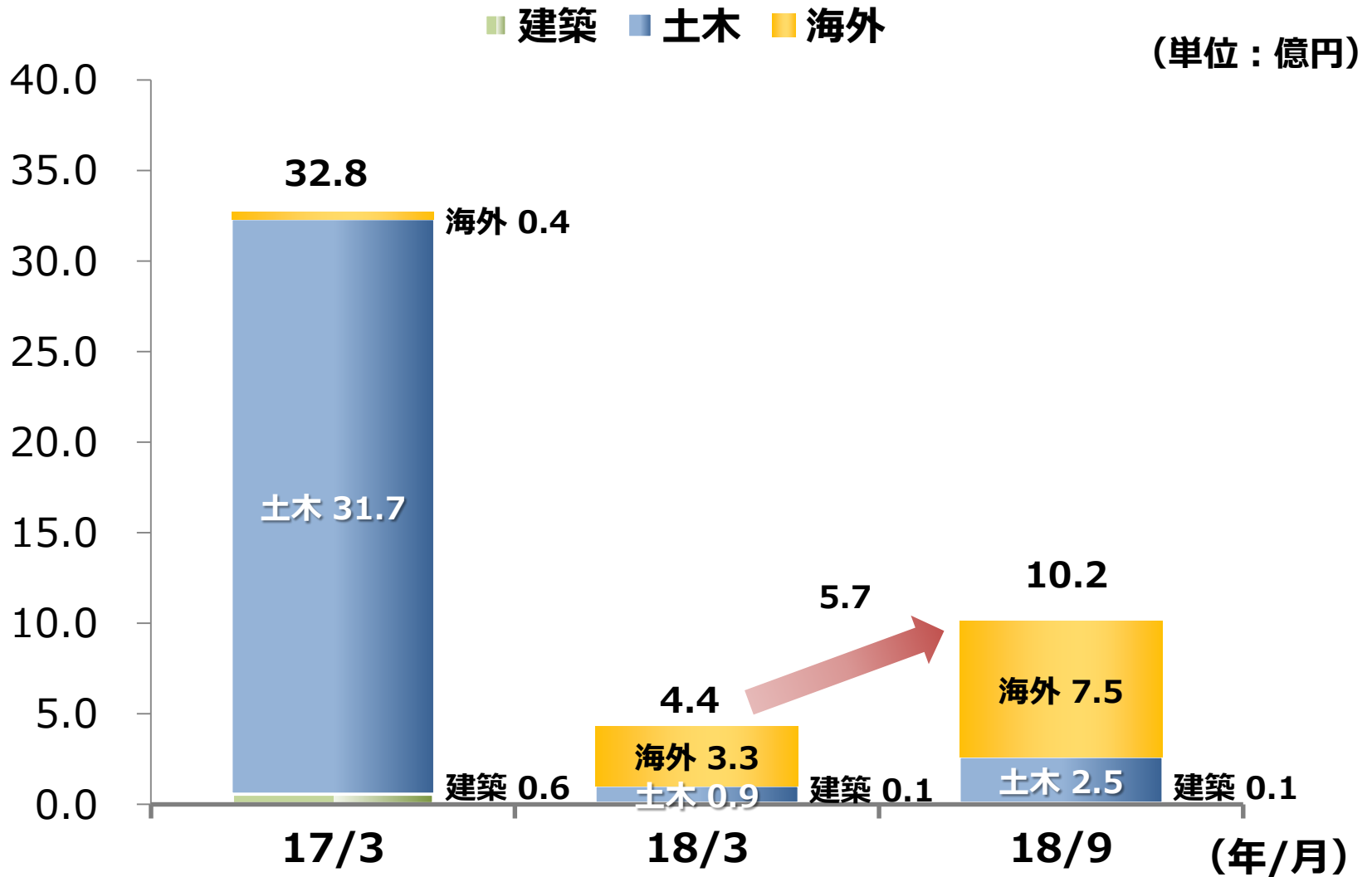
0.68倍

0.45倍

0.43倍

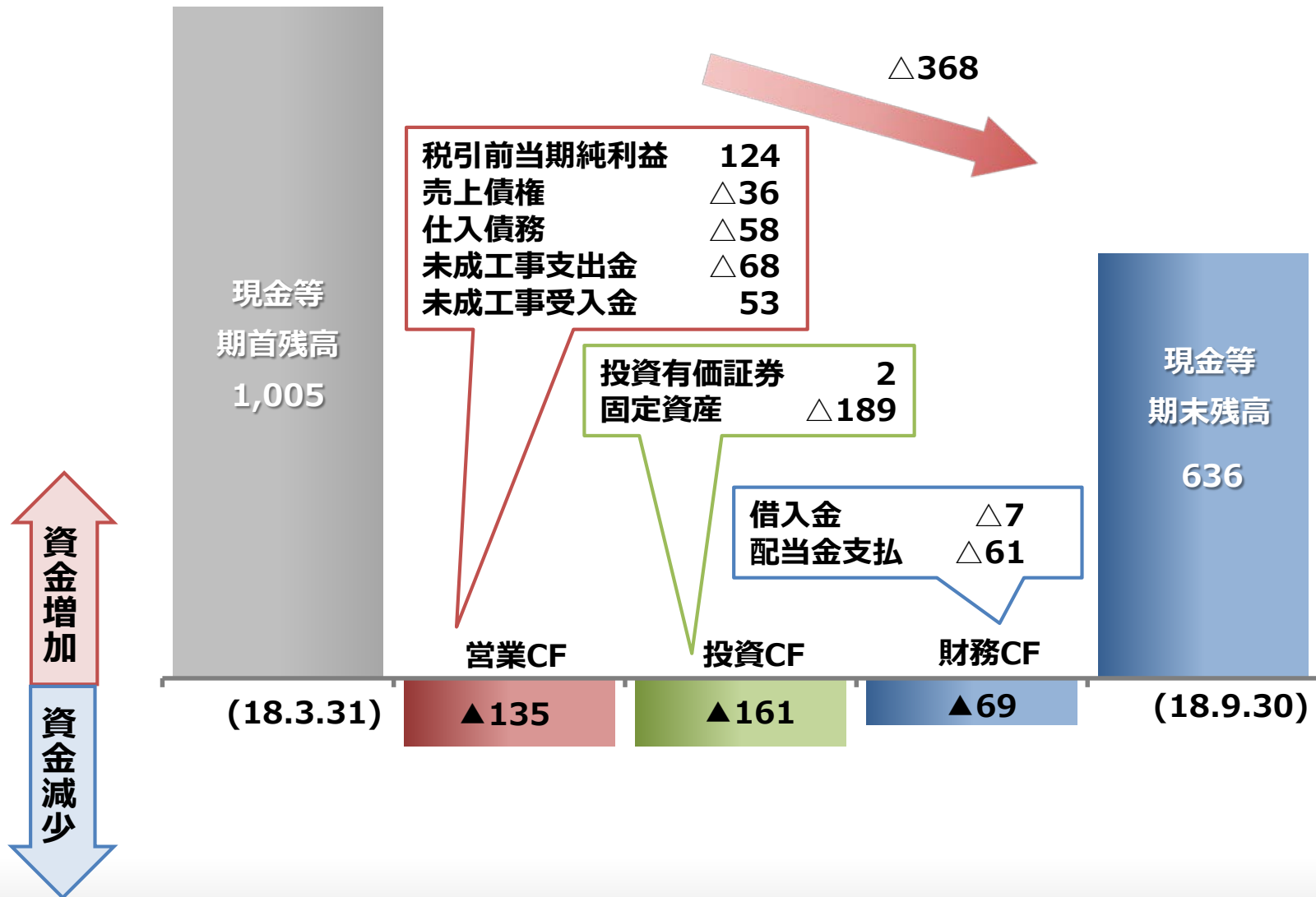
0.42倍

【連結】工事損失引当金の推移



【連結】キャッシュ・フロー

(単位：億円)



1-3. 業績予測

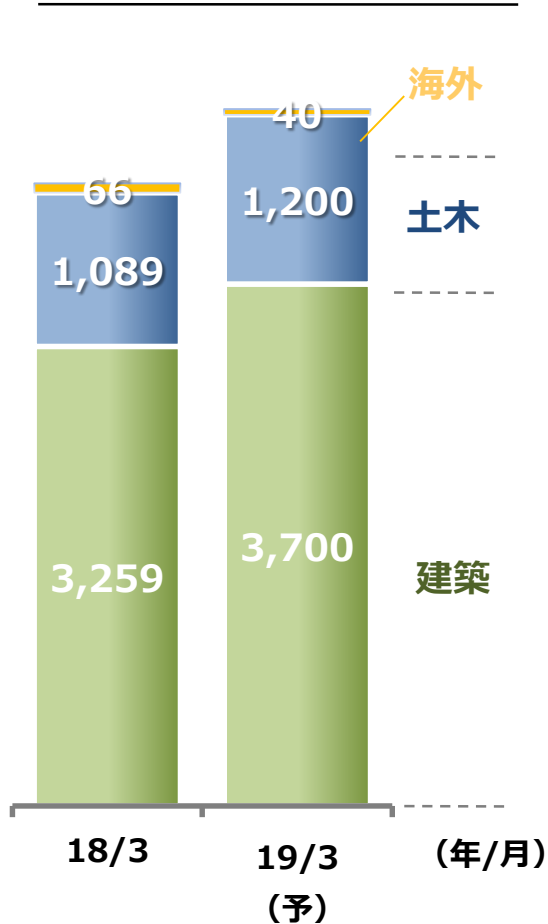
2019年3月期 決算予測

単位：億円	2018/3期	2019/3期		
		予 測	前期との差	
連結売上高	4,290	5,140	19.8%	849
営業利益	304	310	1.8%	5
経常利益	330	333	0.8%	2
親会社株主に帰属する 当期純損益	254	223	△12.4%	△31
建設受注高 (個別)	4,414	4,940	11.9%	525

【個別】建設事業の業績予測

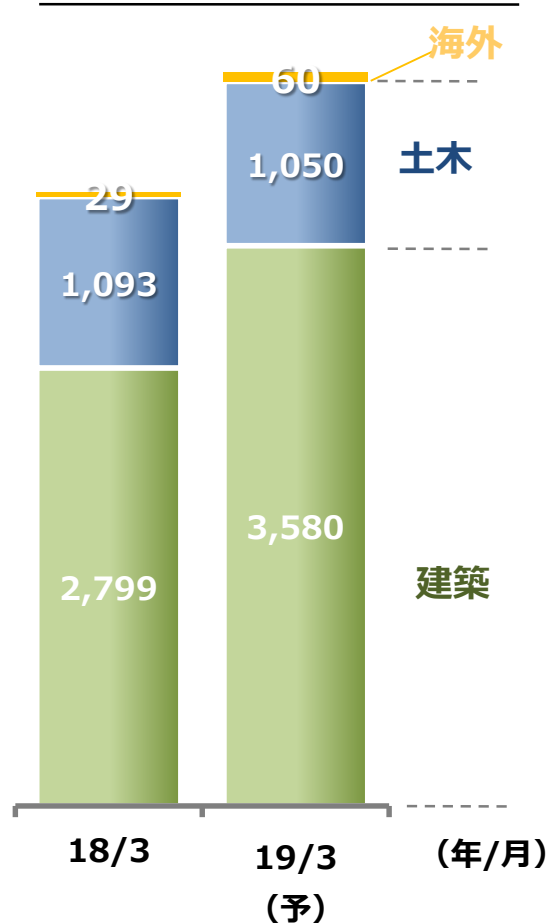
(単位：億円)

建設受注高

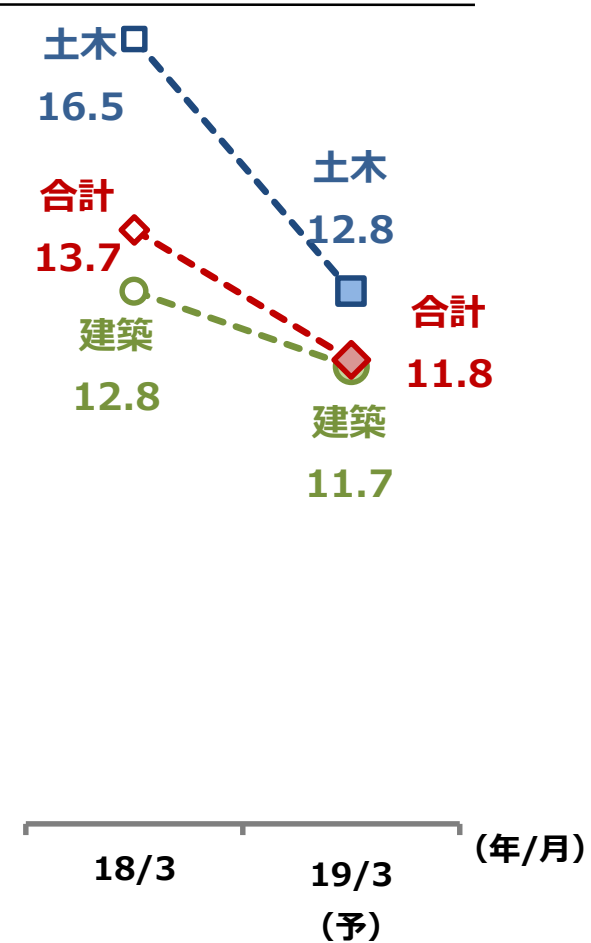


(%)

完成工事高



完成工事利益率




2019年3月期 個別業績の予測

	金額 (億円)	利益率 (%)
売上高	4,780	
売上総利益	575	12.0
建設事業 利益	555	11.8
(国内建築)	(418)	(11.7)
(国内土木)	(134)	(12.8)
(海 外)	(2)	(4.4)
投資開発事業等 利益	20	22.2
一般管理費	280	
営業利益	295	6.2
経常利益	317	6.6
法人税等	103	
当期純利益	214	4.5

2. 課題と取り組み

代表取締役社長 今井 雅則

2-1. 事業・業績の見通し



事業別売上高・営業利益

期初予測から変更なし

単位：億円

上段：売上高 下段：営業利益	2017年度実績		2018年度予測	
国内建築	2,799		3,580	
	174	6.2%	230	6.4%
国内土木	1,093		1,050	
	118	10.8%	73	7.0%
投資開発＋新領域	59		98	
	11	20.1%	0	0.5%
国内グループ会社	342		362	
	12	3.7%	11	3.2%
海外	138		207	
	△12	-	△5	-
合計	4,290		5,140	
	304	7.1%	310	6.0%

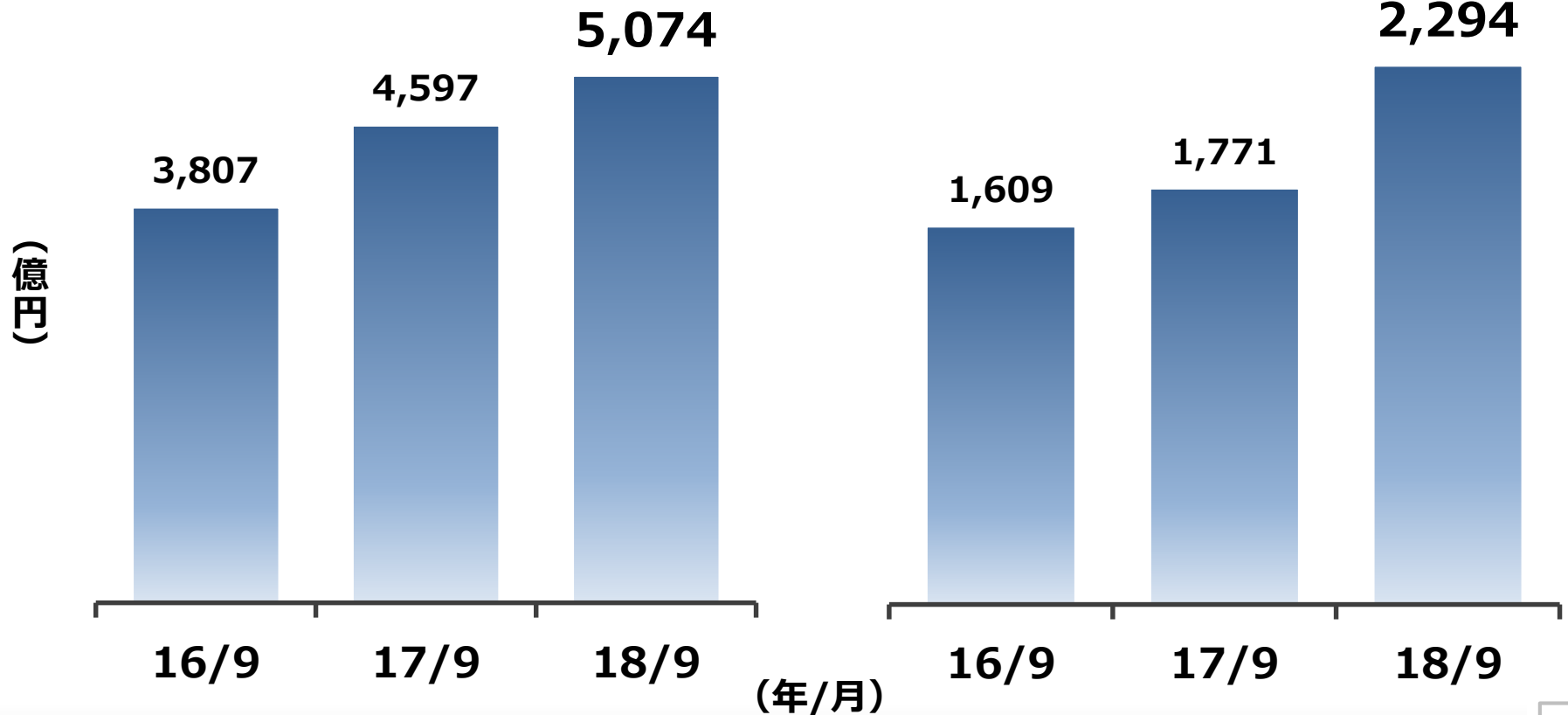
※「%」は営業利益率。連結消去は「合計」に反映している。

繰越工事高の推移

生産性・安全性への取り組みを強化

国内建築

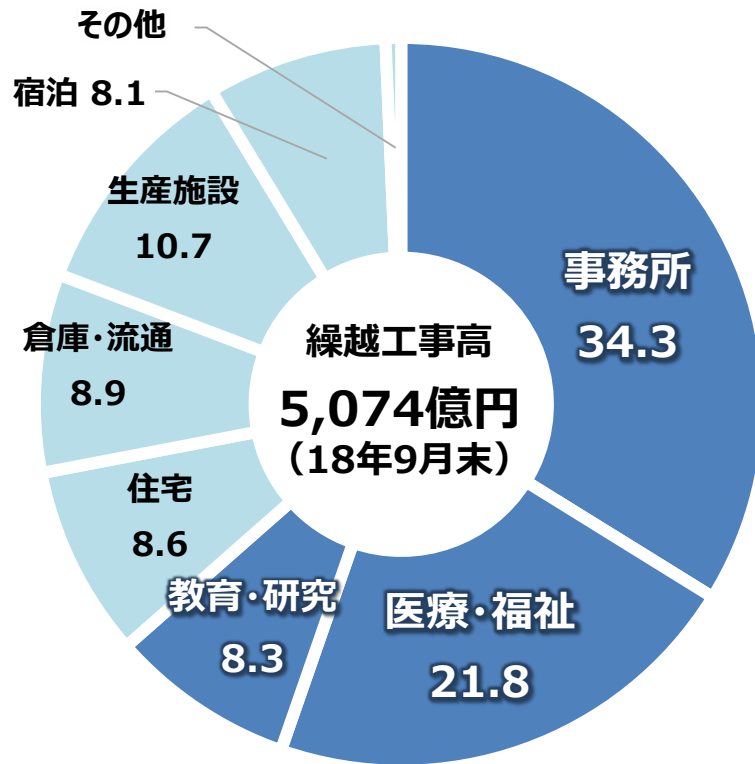
国内土木



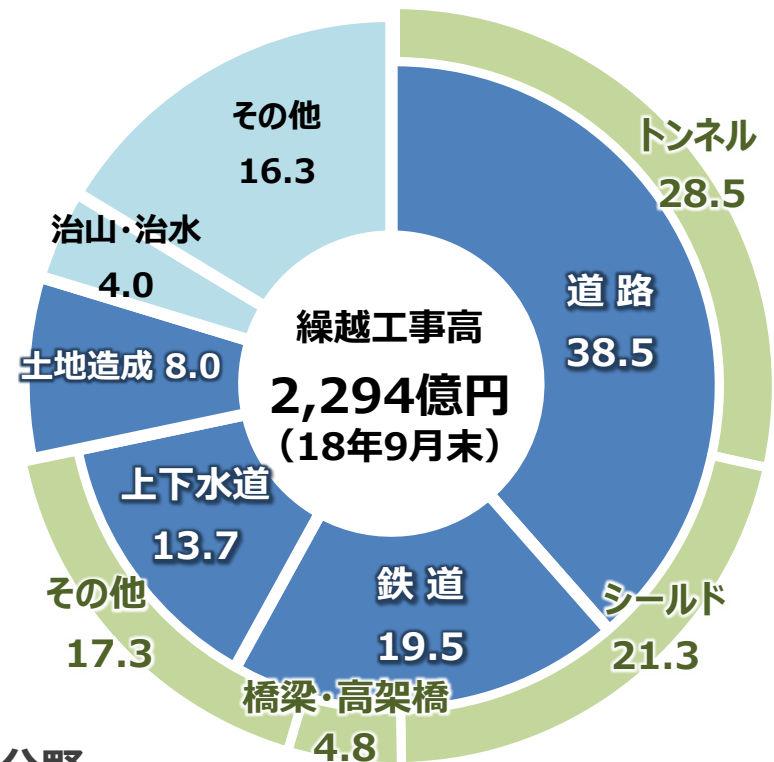
繰越工事・工事種別内訳

独自技術の発揮による対顧客価値の向上

国内建築事業 (単位：%)



国内土木事業 (単位：%)



中期計画 重点分野

病院・学校

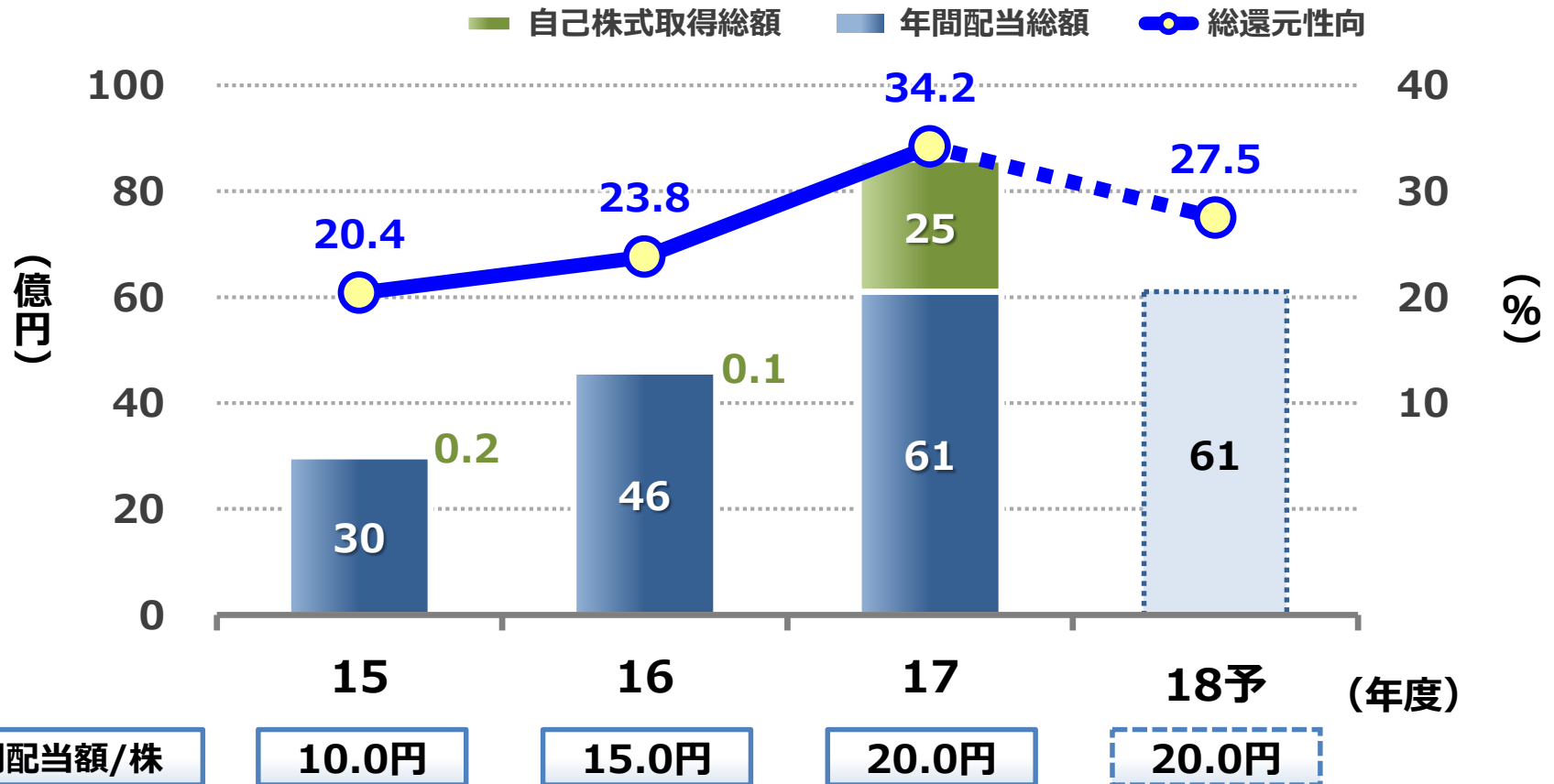
高付加価値オフィス

山岳トンネル・大型トンネル

区画開発

株主還元

株主還元総額・総還元性向



- ※ 2015・16年度の総還元性向は、税金等調整前当期純利益に法定実効税率を乗じて試算した数値。
- ※ 2017年度の自己株式取得総額は、戸田みらい基金に係る取得額（24.9億円）を含んでいる数値。
- ※ 2018年度の総還元性向は、自社株式取得を考慮していない数値。

2-2. 持続的成長に向けて



中期経営計画2019の位置付け

戸田建設グループ グローバルビジョン

“喜び”を実現する企業グループ

2015年度～2016年度

2017年度～2019年度

2020年度～

フェーズⅠ

フェーズⅡ

成長基盤整備

(業務・意識改革)

持続的成長に向けた収益基盤構築

(リソースシフトと新価値創造)

持続的成長

(強靱・多様性)

課題認識

収益基盤の“多角化”

継続的かつ安定的な価値創造と収益拡大

人財・働き方の“多様化”

既存の枠にとらわれない創造力と事業推進力
仮移転を活用した働き方改革・多様性への挑戦

**持続的成長の実現に向けて
事業・技術・人財に対する投資を推進**

筑波技術研究所の再整備

複合実験棟の建設に着手 (2019年10月 竣工予定)



既存施設 (大型棟) を解体し、2倍の規模の構造・施工実験施設を新設。

- 材料の高強度化に伴う実験機器の更新
- 土木分野でも使用できる地盤・杭基礎実等を屋内で実施

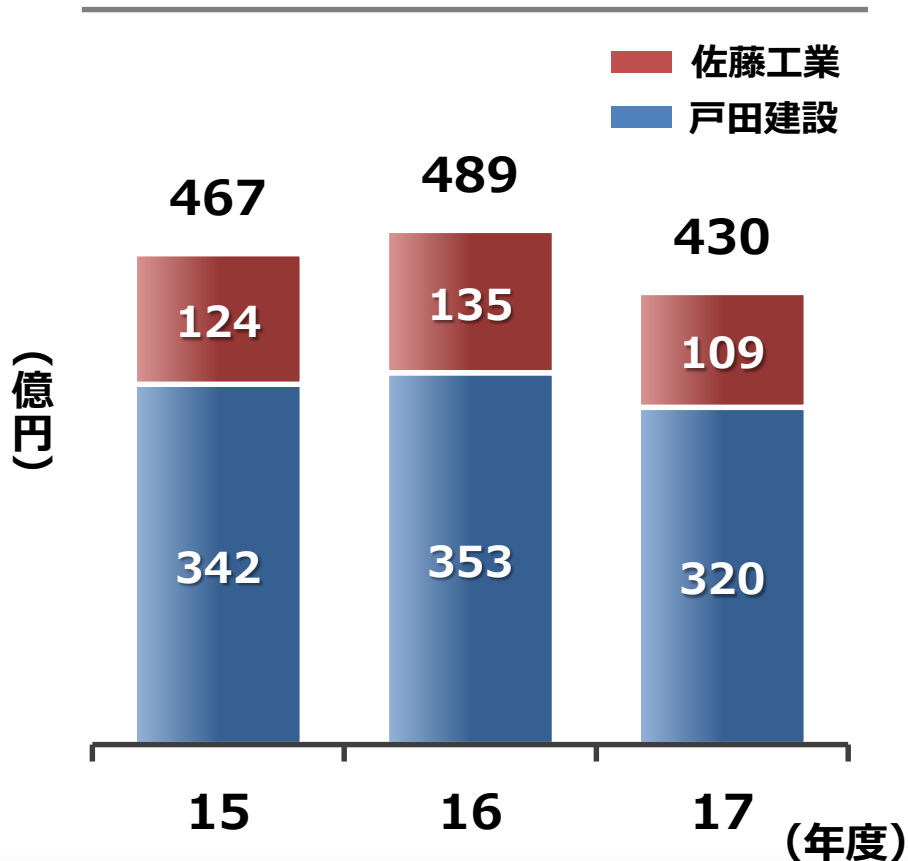


佐藤工業の子会社化

(株式取得予定：2018年12月14日)

地場有力ゼネコンとのコラボレーション

東北エリア売上高 (単純計)



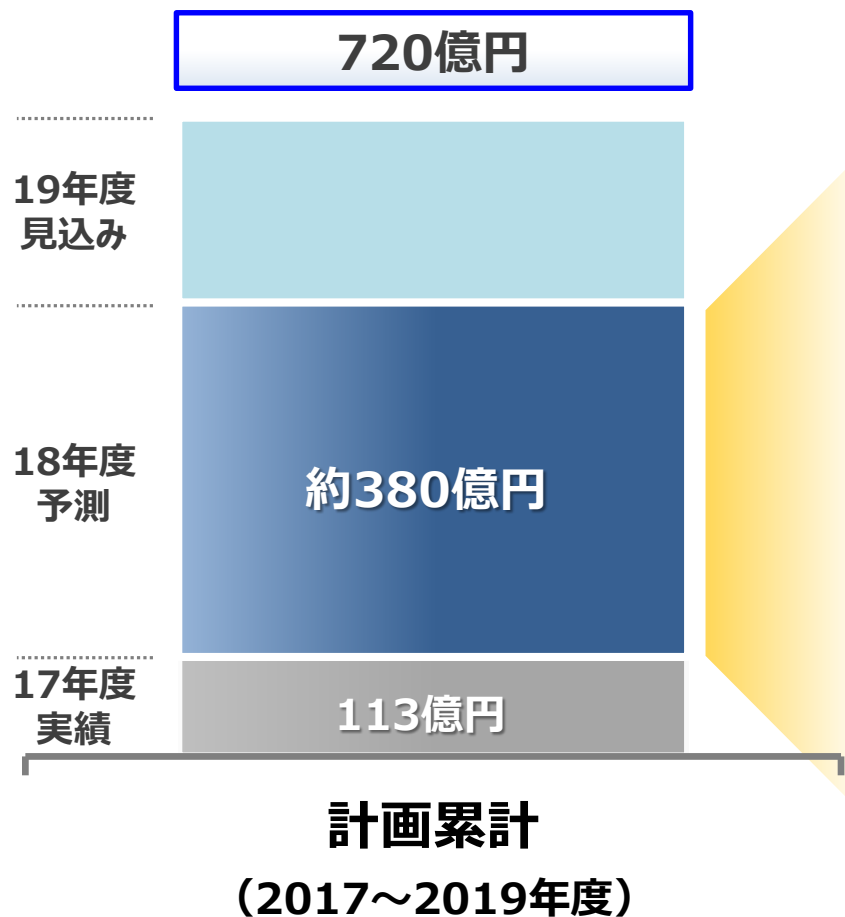
- 技術・ノウハウ・人財の相互活用と継続進化
- 環境・エネルギー等、収益領域の拡大
- 全国・地場ゼネコンの新しい連携体制の確立
- 戸田建設グループの事業活動の活性化

佐藤工業 企業概要

名称	佐藤工業株式会社
所在地	福島県福島市泉字清水内 1 番地
資本金	100百万円
設立	1948年10月21日

投資計画の進捗状況

多角化・差別化に向けた投資を加速



左：船場ビル（大阪）
右：南砂企業寮 ※下期投資

[内訳]	[17年度]	[18年度]	[計画累計]
投資開発（不動産等）	66	215	420
新領域他（エネルギー等）	26	140	240
技術・ICT	20	25	60

※ 新領域他（18年度）には、佐藤工業株式取得分を含む。

環境・エネルギー事業の展開

価値の共創を通じた、お客様事業への貢献

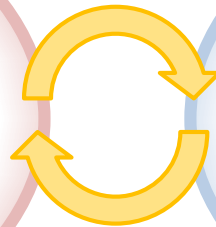
お客様事業への貢献
(省エネ・再エネ100%の推進)

お客様

[課題]

ESG経営・RE100等への配慮
エネルギーコストの削減

Assembly
& Collaboration



戸田建設

[強み・可能性]

新技術の開発・自社実践
再生可能エネルギー事業の推進

生産性・創造性を高めるワークスタイルへ変革



オフィス イメージ

- 効果的なICTインフラ・ツール・サービスを通じたABW※の実践

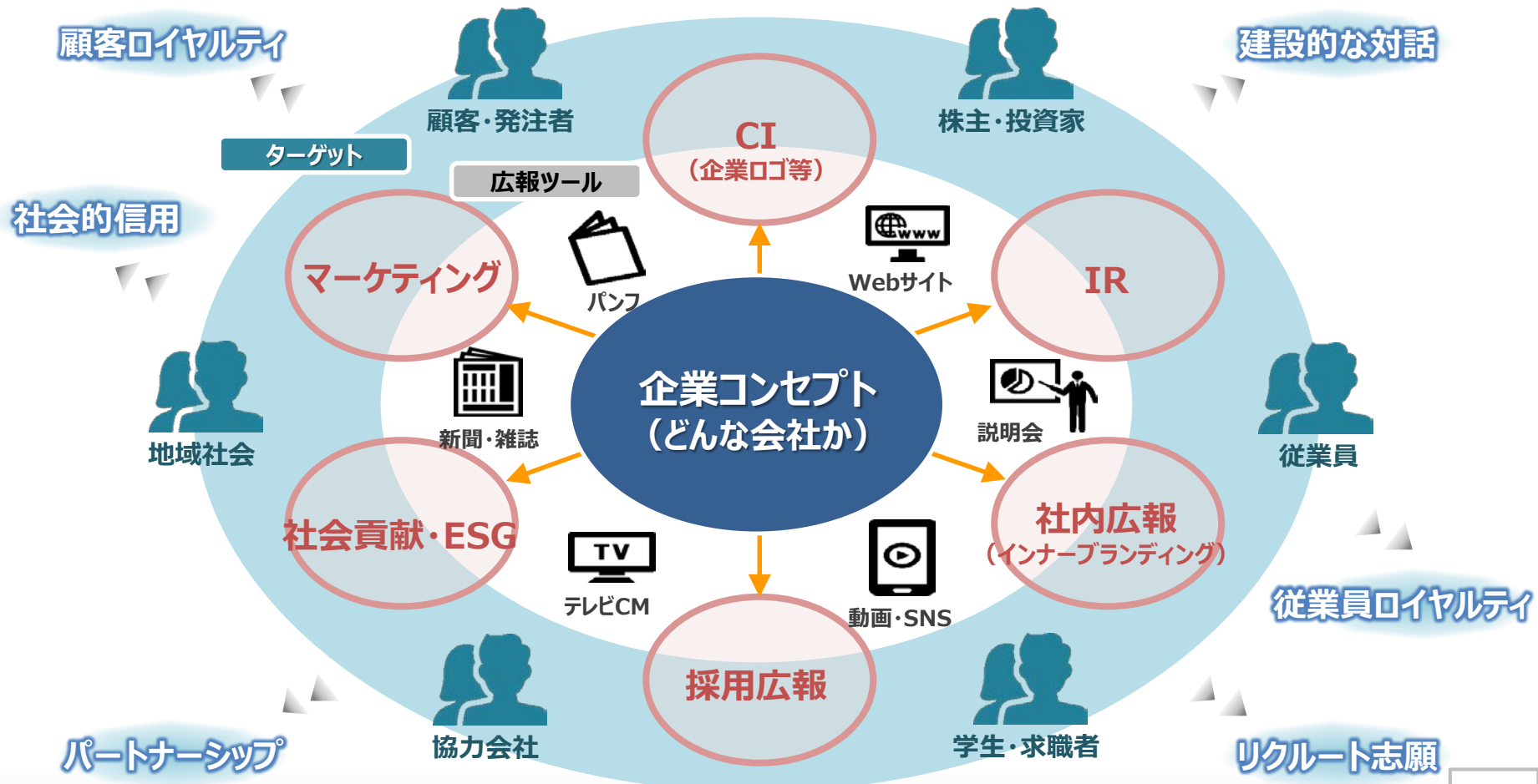


オフィス イメージ

- コミュニケーションを促進する、執務室・会議室等のワークプレイス

ブランドマネジメントの推進

企業コンセプトに基づき、訴求効果の高い情報を発信
(ブランドマネジメント委員会で統合管理)



企業情報の発信

企業価値の向上・建設業の魅力化を目指して



2021年に創業140周年を迎えるにあたり、当社および建設業の魅力を発信するPR企画「『ほんたダ!』プロジェクト」を、2018年9月3日よりスタートしました。

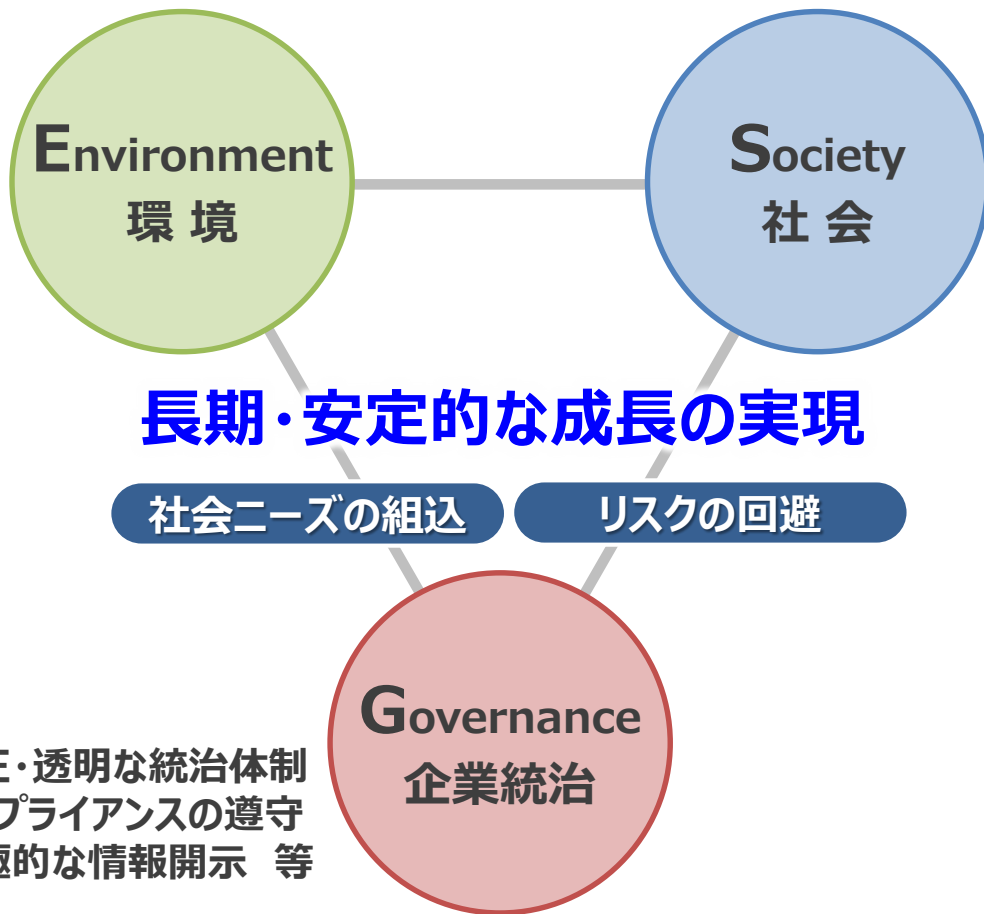
特設サイト <http://hon.toda.co.jp>



ESG経営の推進

事業活動に係るCO2削減
環境破壊・汚染の回避
環境ビジネスへの注力 等

労働環境改善
ダイバーシティの推進
地域社会への貢献 等



参考) 世界のESG投資額 (億\$)

	2014年	2016年	投資全体に 占める割合 (2016年)
ヨーロッパ	10,775	120,400	52.6%
日本	70	4,740	3.4%
世界全体	182,760	228,900	26.3%

- 世界のESG投資額は急速に拡大
- 全運用資産残高に占めるESG投資の割合も26.3%に拡大
- 先行する欧州ではESG投資が過半数

“喜び”を実現する企業グループ



戸田建設